

「ひとり親家庭サポート地域拠点強化事業
～ひとり親家庭が地域とつながる本と笑顔の居場所プロジェクト～」

採択事業一覧

団体名	申請事業名	事業概要*	選定理由	助成額** (単位:円)
認定 NPO 法人 happiness	子ども食堂、私設ライブラリーを通したひとり親家庭支援事業	<p>この事業は、ひとり親家庭が社会的に孤立することを防ぎ、安心して暮らせる地域となることを目指す。2016 年から子ども食堂を開設してきた NPO 法人 happiness は、これまでの子ども食堂活動や体験活動をさらに発展させ、新たなひとり親支援拡充に取り組む。具体的な活動は以下の通り。</p> <p>1. 本のある拠点とひとり親家庭支援の連携事業</p> <p>1-1. 2023 年 5 月から私設図書館「まちライブラリー」の運営を始め、書籍および貸貨物件は整備されている。ひとり親家庭に「誰でも利用できる居場所」としてのライブラリーの認知度向上を目指す。</p> <p>1-2. 本法人の中核となる活動である子ども食堂を、ライブラリーのスペースを使用して運営する。ひとり親家庭が参加しやすいよう、誰でも参加できる形で受け入れを行う。必要であればパントリー事業も利用してもらう。さらに、ひとり親家庭向けの生活サポートのため、定期的に相談会を行い、看護師、弁護士、ソーシャルワーカーなどの専門家とつなぐ。</p> <p>1-3. ひとり親家庭を含む地域の子どもに向けて、本の読み聞かせをはじめとした図書イベントを京都市図書館と連携して行う。</p> <p>1-4. 一昨年より企画・実行してきた地域のお祭り(子ども食堂の PR イベント)にて、ひとり親とその子どもが安心して暮らせる地域であることをアピールする。</p> <p>2. ひとり親家庭支援の普及事業</p> <p>2-1. ひとり親家庭支援に特化した研修会を行い、連携体制を強化する。社協・市内の団体と合同で、全6回の研修を企画する。</p> <p>2-2. 京都市南区には 10 箇所の子ども食堂が活動している。これら子ども食堂のネットワークおよび京都市社会福祉協議会と、ひとり親家庭支援のガイドラインを作成する。</p> <p>2-3. 本事業の活動成果を、京都市内の子ども食堂と共有するため報告会を開催する。</p>	<p>選定理由としては、まちライブラリーや子ども食堂を通じた活動経験が高く評価され、本助成事業が目指すひとり親家庭が支援される側としてだけでなく、安心して過ごせる場づくりが活動計画に含まれていたことが挙げられます。</p> <p>ひとり親支援者向けの講座を受講するなど、今後は団内での支援者を育成し、南区を中心に連携体制を強化していく計画も含まれていました。</p> <p>これらの点が、本助成事業が目指すひとり親家庭支援の普及と合致していたと評価されました。</p>	<p><管理的経費> 1,348,169 <直接事業費> 5,651,831</p>

<p>認定 NPO 法人 さいたまユース サポートネット</p>	<p>「本のある居場所」 がつなぐ地域と孤 立するひとり親家 庭 ～「本のある居場所」づ くりを通して、社会から 一人も取り残さないロ ーカル・コモنزの形成 ～</p>	<p>1.2021 年以降、就学前の子から小学生を対象にした居場所活動を行 い、1 千冊を超える絵本などを収集し、絵本を読む会を毎月開催してい ます。さらに併設するコモنزカフェにも絵本コーナーを作り、地域の子ど もたちに開放しています。</p> <p>(1) 本事業では、コロナ禍で孤立が深まったひとり親家庭の子どもと親 に対し、本部拠点である見沼区堀崎で居場所を提供し、読み聞かせ会 の他に、子どもをテーマとした本を取り上げた読書会を開催します。長期 の欠席・不登校の児童生徒が激増する中で、学習活動を避ける子どもも 増えています。地域で、就学前からの読書に親しむ活動は子どもの学力 の保障にもつながります。</p> <p>(2) 子どもの学習・スポーツ・遠足・野菜づくり・クリスマス会などの季節 の行事など、多岐にわたる体験活動を実施し、さらに魅力ある「本のある 地域拠点」を形成します。</p> <p>2. 実施にあたっては、</p> <p>(1) ひとり親限定のトークアプリを提供・運営している「一般社団法人ペ アチル」と提携し、シングルマザー・シングルファザーにターゲットを絞った 効果的なつながりをつくります。</p> <p>(2) 日頃から、地元で当団体と連携している読み聞かせ団体の「るびな す文庫」、数年連携している県立高校の司書グループ、また地域の図書 館・書店等に協力を呼びかけます。</p> <p>(3) 地域住民・団体や地元企業、行政、学校等の教育機関を訪問し、協 力を得、ひとり親家庭の子どもや親を中心としたワンストップ支援のネッ トワークの構築を目指します。</p> <p>3. 専門職によるケア・サポートや、拠点から離れた地域へのアウトリーチ による支援、また、ひとり親への支援を行っている「ペアチル」と連携し、 ひとり親限定のトークアプリを併用することで、気軽な雑談・情報交換か ら、適切な支援を要する悩みの相談まで、よりハイリスクな環境に置かれ たひとり親家庭の子どもや親への支援の質を向上させます。</p>	<p>すでに本のある拠点が、子どもたちが 安心して過ごせる居場所づくりを通した子 ども支援経験が豊富であることが高く評 価されました。</p> <p>ひとり親支援に特化した支援を開始する ために、ひとり親限定アプリを提供する会 社と連携して、ひとり親にアプローチするこ とが活動に含まれています。</p> <p>単年度という短期間の事業期間ですが、 ひとり親家庭支援の入り口としての機能強 化に期待できる点が、本助成事業に合致 してました。</p>	<p><管理的経費> 2,294,913 <直接事業費> 9,705,087</p>
--	---	---	--	--

<p>特定非営利活動法人 泉京・垂井</p>	<p>安心・安全な居場所づくり事業 ～ひとり親家庭が地域とつながる本と笑顔の居場所プロジェクト in 西濃～</p>	<p>NPO 法人泉京・垂井は過去約 3 年、居場所事業を実施してきた。それはひとり親を対象とした事業ではないが、イベント参加や居場所利用者の中にひとり親の存在が目立った。社会福祉協議会担当者によると、一般的に人は「支援される側になりたくない」という心理が動き、それが支援の手を遠ざけていると言う。その層の声は社会に届かず、支援から取り残される可能性が高い。そのため、あえて「ひとり親」を限定しない継続的な居場所を開設するとともに、不特定多数が集まるイベントを開催する中でこちらから対象者にアプローチできる活動を行う。</p> <p>過去 3 年は垂井町を中心に居場所事業を行ってきたが、当事者にとってより身近に「居場所」を利用できるよう、岐阜県西濃地方全体に活動を広げていく。まずは垂井町北隣の池田町で活動する認定 NPO 法人アイキャンと連携し、同法人に一部事業を委託することによって、岐阜出張所の「居場所」機能を強化する。また、東隣の大垣市に所在し、西濃を中心にフードドライブを実施しているフードバンクぎふや西濃各地の子ども食堂等を通じて、ひとり親家庭への直接支援も実施する。</p> <p>行政や専門家を含む、ゆるやかなネットワークを西濃全体でつくることで、ひとり親家族が抱える課題解決能力の底上げを行う。活動は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本のある拠点とひとり親家庭支援の連携事業 <ol style="list-style-type: none"> 1-1. ひとり親家庭が立ち寄ることができる本のある拠点整備 1-2. ひとり親家庭が立ち寄ることができる居場所の提供 1-3. ひとり親支援団体等と連携した食料・文具等提供 1-4. ひとり親家庭向けの生活サポートや相談 1-5. ミニイベントの実施 1-6. 広報活動 2. ひとり親家庭支援の普及事業 <ol style="list-style-type: none"> 2-1. 相談・連携・居場所対応のための支援者育成研修・メンタルヘルスケア 2-2. 連携・支援ガイドライン作成・配布 2-3. 他団体への活動成果報告会 	<p>選定理由としては、公営図書館や書店などが限られ、また支援の入り口というなる団体も少ない地域でライブラリー機能を持つ居場所が出現することに先駆性と実験性があり、社会的波及効果も大きいと評価されました。垂井町、池田町で培ったネットワークを活かし、近隣地域の多くの機関と連携しながらひとり親が支援の有無に関わらず立ち寄れる場としての運営にも期待が寄せられます。</p> <p>同時に団体内でひとり親支援や子どもの権利を学び、支援者養成に積極的に取り組む活動が含まれており、ケアする人のケア（支援者のメンタルヘルスへの配慮）の実績も評価されました。</p>	<p><管理的経費> 1,098,640 <直接事業費> 8,201,360</p>
----------------------------	--	--	---	--

<p>特定非営利活動法人 こどもサポートステーション・たねとしく</p>	<p>ひとり親家庭のこども達とつながる伴走支援</p>	<p>当団体の運営メンバーは2019年より別団体においてひとり親家庭の孤立防止と家事負担減を目的に食料支援と訪問型家事・育児支援等を行ってきました。これらの活動だけでは親子関係の問題や不登校による居場所不足、学習機会や体験不足を補えないという課題を抱えていました。そこで2022年7月に独立し、当団体を設立。2023年8月に本のある居場所「たねとしくライブラリー」を開館しました。また、市民が協働してこども達を支える「一箱本箱サポーター制」を取り入れています。西宮市内外から50名の方に月額寄付と本の提供をいただいています。しかし、居場所とアウトリーチの連携が十分に生かし切れておらず、また生活環境が悪化しているひとり親家庭への支援が不足しています。また、資金面での課題があり、ひとり親支援の普及や支援者育成などに着手しにくい状況があります。</p> <p>◆本事業の3つのねらい</p> <p>①アウトリーチ事業と居場所事業をより連動させます。</p> <p>②多くのひとり親家庭と出会うよう保育士や他団体、自治体との連携を深めます。</p> <p>③ひとり親支援の普及を牽引します。</p> <p>◆事業の3つの柱</p> <p>1.ひとり親家庭支援と居場所事業の連携事業</p> <p>1-1 ひとり親家庭のこども達と親のための居場所運営</p> <p>1-2 0歳～10代が安全に利用できる「たねとしくライブラリー」の整備</p> <p>1-3 「乳幼児のいるひとり親家庭のための子育て広場」を実施</p> <p>1-4 ひとり親家庭向けの訪問型支援(1)家事・子育て支援(2)子育て相談訪問(3)絵本訪問</p> <p>2.食料支援事業</p> <p>3.ひとり親支援の普及事業</p> <p>3-1 スタッフ支援者育成</p> <p>3-2 当事業の普及と継続のための検討活動(1)視察(2)保育士との情報交換会</p> <p>3-2 連携・支援ガイドラインの作成・配布</p> <p>3-3 情報発信・広報</p> <p>3-4 他団体への活動報告会</p>	<p>選定理由としては、一箱オーナー制の本のある拠点で地域の多様な人を巻き込みつつ、定期的に子どもの居場所を運営していると同時に、アウトリーチ型のひとり親家庭支援の実績があり、本助成事業が期待する活動と一致していることが挙げられます。また、子どもや子育てに関する現状や組織としての課題をしっかりと把握した上で、活動計画が策定されていました。</p> <p>支援方針として、こどもたち全員が安心して場を利用できるよう、スタッフが子どもの権利を学び、ライブラリーに関わる大人が遵守すべき「こどもたちへの9つの約束」作成していたことも評価されました。</p> <p>これらの実績から、単年度という短い事業期間内でも、ひとり親家庭のサポート地域拠点としての機能強化の成果が期待されています。</p>	<p><管理的経費> 1,820,250 <直接事業費> 11,379,750</p>
--	-----------------------------	--	---	---

knocks!horikawa 運営委員会	本のある拠点を起点にしたひとり親家庭支援ネットワーク事業	<p>この事業は、ひとり親家庭の保護者および子どもが安心して過ごせる場所をつくり、困った時に気軽に相談できる先、支援を求めただけではなく支える側になれる場となることで、社会的孤立を防ぐ。さらに、相談窓口や他団体活動につながるよう情報を整理し、まとめるプロセスを体系化することで、他の地域でのひとり親家庭の社会的孤立を防ぐ居場所づくりに貢献する。knocks! horikawa 運営委員会は、これまでの活動に加え、1.本のある拠点を起点にした支援ネットワーク事業、2.包摂的なコミュニティの仲間づくり事業に取り組む。具体的には、次の活動を実施する。</p> <p>1.-①本のある拠点の整備:ひとり親家庭にすすめたい(ひとり親家庭の保護者や子どもが読みたい)書籍の充実、ハード面の整備をする</p> <p>1.-②ひとり親家庭の保護者や子ども向けイベント:主に長期休暇中に子どもが過ごせる場としてイベント・ワークショップを開催する</p> <p>1.-③広報強化:相談窓口や他団体とひとり親家庭がつながるため、双方への広報を行う(上京区を中心とした地域イベントへの参加と広報活動)</p> <p>2.-①相談・連携のための支援者育成講習会:安心して相談できる先として、スキルや知識を磨くための研修を受講し、他団体と連携することで相談支援体制を強化する</p> <p>2.-②ガイドライン等の作成・配布:民営の図書館が居心地がよく安心して過ごせる場となるようガイドラインを作成し、ひとり親家庭を支援したい民営の図書館などの団体向けにガイドラインを配布する</p> <p>2.-③他団体への活動成果報告:動画サイトのアップや学会などで発表する</p> <p>これらの活動により、困った時に頼れる、支援をお願いできるボランティア団体や行政サービスとつながる機会、地域ネットワークをつくり、さらに支援されるだけでなく支える側にもなることで、社会的孤立を感じるひとり親家庭を減らす。</p>	<p>数多くのひとり親家庭への支援経験のある団体が本助成事業に申請されたなかで、唯一、本のある居場所(拠点)を運営する団体からの申請となりました。</p> <p>商店街内で運営されてきた民営ライブラリーにおいて、「支援される立場」ではなく、ひとり親家庭が地域とつながる場としての機能強化が申請事業に含まれており、本助成事業が期待する活動と合致していません。</p> <p>商店街内に拠点を持つことの強みを最大限活用し、ひとり親家庭が安心して過ごせる場づくりと、新たな支援のニーズとその変化に対応するため地域内の複数のひとり親支援団体との連携を通じた活動に挑戦される点が評価されました。</p>	<p><管理的経費> 1,246,692 <直接事業費> 5,253,308</p>
-----------------------	------------------------------	--	--	--

*事業概要は各団体の申請書(事業計画書)からそのまま転記しました。

**助成額は実行団体よりご提出いただいた事業計画書・資金計画書に基づき算定しています。